

Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell EMC Server Deployment Pack バージョン 4.0

ユーザースガイド

メモ、注意、警告

① **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

△ **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。

⚠ **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

Copyright © 2009 - 2017 Dell Inc. or its subsidiaries. All rights reserved. Dell, EMC, およびその他の商標は、Dell Inc. またはその子会社の商標です。その他の商標は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

目次

1 はじめに.....	5
本リリースの新機能.....	5
Dell EMC Server Deployment Pack 機能の概要.....	5
Dell EMC Server Deployment Pack のためのコンソールおよびオペレーティングシステムのサポートマトリックス.....	6
複数のプライマリサイトサーバーに配布された Configuration Manager のセットアップ.....	6
2 Configuration Manager を使用する前に.....	8
Dell EMC Server Deployment Pack の推奨 Dell Deployment Toolkit バージョン.....	8
3 System Center Configuration Manager、2012 SP2、2012 R2 SP1、2012 R2、2012 SP1、または 2012 を実行するシステムでの Dell EMC Server Deployment Pack の使用.....	10
Dell ドライバ CAB ファイル.....	10
起動イメージの作成用の Dell ドライバ CAB ファイルのインポート.....	10
Dell ドライバ CAB ファイルのアップグレード.....	11
Dell ドライバ CAB ファイルによる起動イメージのカスタマイズと OS の導入.....	12
PowerEdge サーバ導入用の起動イメージの作成.....	12
起動イメージのデバッグのためのコマンドプロンプトの有効化.....	13
コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート.....	13
オペレーティングシステムイメージとドライバパッケージを適用するためのタスクシーケンス手順の設定.....	13
タスクシーケンスの導入.....	14
Dell Deployment Toolkit.....	14
ハードウェア設定および OS 導入用の DTK パッケージのインポート.....	15
DTK パッケージのアップグレード.....	15
DTK による起動イメージのカスタマイズ、ハードウェアの設定、および OS の導入.....	15
システムロックダウンモード.....	16
サーバーのハードウェアコンポーネントの構成.....	17
タスクシーケンス処置の設定.....	18
Array Builder の使用.....	24
RAID、DRAC、iDRAC 用のタスクシーケンスの作成.....	29
Dell サーバードライバパッケージのインポート.....	31
4 トラブルシューティング.....	33
コマンドラインインターフェイスを使用して RAID をシステムに適用しようとするエラーが発生する.....	33
アップグレードシナリオ 1.....	33
アップグレードシナリオ 2.....	33
5 コマンドラインオプション.....	35
6 デルのその他のマニュアル.....	37
Dell EMC へのお問い合わせ.....	37

Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス.....37

はじめに

本書では、Microsoft System Center Configuration Manager (Configuration Manager) 用 Dell EMC Server Deployment Pack (DSDP) バージョン 4.0 で行うことができる各種操作について説明します。

- ① **メモ:** 本書には、DSDP の使用に際して必要となる要件およびサポート対象ソフトウェアに関する情報が記載されています。リリース日から長期間経過した後でこのバージョンの DSDP をインストールする場合は、サポートサイトで本書のアップデート版の有無を確認してください。サポートサイトの各文書にアクセスするには、「[デルサポートサイトからの文書へのアクセス](#)」または Dell.com/support/Manuals/us/en/04/Product/server-deployment-pack-v4.0-sccm を参照してください。

トピック :

- [本リリースの新機能](#)
- [Dell EMC Server Deployment Pack 機能の概要](#)
- [Dell EMC Server Deployment Pack のためのコンソールおよびオペレーティングシステムのサポートマトリックス](#)
- [複数のプライマリサイトサーバーに配布された Configuration Manager のセットアップ](#)

本リリースの新機能

- 第 14 世代 PowerEdge サーバのサポート。
- Microsoft System Center Configuration Manager のサポート。
- システムロックダウンモード機能のサポート。詳細については、「[システムロックダウンモード](#)」を参照してください。

Dell EMC Server Deployment Pack 機能の概要

Dell EMC Server Deployment Pack を使用すると、次のタスクを実行できます。

- INI ファイルおよびコマンドラインインタフェース (CLI) オプションを使用した、サーバの Dell Remote Access Controller (DRAC), integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC), RAID および BIOS の設定。RAID の設定には、**Array Builder ウィザード**を使用することもできます。
- オペレーティングシステムの展開に使用する Dell 専用の起動イメージの作成。
- 特定の Dell サーバのためのドライバインストールパッケージの作成と適用。
- オンサイトサーバのインストールにおける典型的なサーバ導入を行うための各種ウィザードへの起動ポイントの統合。
- グローバルおよび専用 RAID ホットスワップを最大 16 台までサポート。
- Microsoft System Center Configuration Manager、2012 SP2、2012 R2 SP1、2012 R2、2012 SP1、または 2012 リリースのサポート。
- **PowerEdge Deployment Toolkit Configuration (PowerEdge Deployment Toolkit 設定) ウィザード**を使用した Dell Deployment Toolkit (DTK) のインポート。DTK パッケージは、管理コンソールからではなく、サイトサーバからのみインポートするようにしてください。
- Configuration Manager 管理コンソールからの Dell ドライバパッケージのインポート。
- x64 および x86 起動イメージ (64 ビット対応 DTK が必要) を使用したオペレーティングシステムの導入。

- ① **メモ:** すべての対応オペレーティングシステムについては、『*Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell EMC Server Deployment Pack バージョン 4.0 インストールガイド*』の「[対応するオペレーティングシステム](#)」の項を参照してください。

Dell EMC Server Deployment Pack のためのコンソール およびオペレーティングシステムのサポートマトリックス

次の表には、Configuration Manager 用 Dell EMC Server Deployment Pack でサポートされているオペレーティングシステムについての情報が記載されています。

表 1. WinPE 用 Dell EMC Server Deployment Pack でサポートされている互換性のあるシステム

Configuration Manager バージョン	WinPE バージョン	オペレーティングシステムの導入
Configuration Manager 2012	3.0	<ul style="list-style-type: none">Windows Server 2008Windows Server 2008 R2
Configuration Manager 2012 SP1	4.0	<ul style="list-style-type: none">Windows Server 2008 R2*Windows Server 2012
Configuration Manager 2012 R2	5.0	<ul style="list-style-type: none">Windows Server 2008 R2*Windows Server 2012Windows Server 2012 R2
Configuration Manager 2012 R2 SP1	5.0	<ul style="list-style-type: none">Windows Server 2008 R2*Windows Server 2012Windows Server 2012 R2
Configuration Manager 2012 SP2	5.0	<ul style="list-style-type: none">Windows Server 2008 R2*Windows Server 2012Windows Server 2012 R2
System Center Configuration Manager	10	<ul style="list-style-type: none">Windows Server 2012 R2Windows Server 2016

凡例 :

*: Windows Server 2008 R2 のサポートについては、support.microsoft.com/kb/2853726 を参照してください。

複数のプライマリサイトサーバーに配布された Configuration Manager のセットアップ

DSDP は複数のプライマリサイトサーバーにインストールすることができます。プライマリサイトサーバーに DSDP をインストールしているときは、DTK のバージョンと、CAS およびすべてのプライマリサイトサーバーで使用されている OpenManage のバージョンが同じであることを確認してください。

インストールの制限事項は次のとおりです。

- DTK をインポートしたプライマリサイトサーバー 1 で DSDP がアンインストールされている場合は、プライマリサイトサーバー 2 の既存起動イメージを使用したり、そこで起動イメージを作成することもできません。起動イメージを作成するには、プライマリサイトサーバー 2 から DTK を再インポートします。最初に DTK がインポートされたサイトサーバーは、起動イメージドライバのソースとして機能します。
- 特定のサーバーモデル向けの OpenManage ドライバは、ひとつのプライマリサイトサーバーにしかインポートできません。このサーバーは、他のプライマリサイトサーバーの OM ドライバのソースとして機能します。

- プライマリサイトサーバーが2つ存在する場合は、Configuration Manager コンソールに4つの Dell パッケージが表示されます。それら4つのうち2つが元のソースで、残りの2つはセカンドプライマリサイトからのインスタンスです。

Configuration Manager を使用する前に

Configuration Manager の使用を開始する前に、次の作業を行うようにしてください。

- **Dell Deployment ToolKit (DTK) ユーティリティと Windows PE ドライバの削除** オプションを使用して DSDP をアップグレードする場合、または DSDP を初めてインストールする場合は、DTK パッケージをインポートします。System Center Configuration Manager、2012 SP2、2012 R2 SP1、2012 R2、2012 SP1、または 2012 用の DTK パッケージのインポートに関する詳細については、「[ハードウェア設定および OS 導入用の DTK パッケージのインポート](#)」を参照してください。
- 適切なパッケージを Configuration Manager 配布ポイントに配布し、それらをアップデートします。**Update Distribution Points (配布ポイントのアップデート)** 操作を行うと、インストールした Dell EMC Server Deployment Pack のすべてのパッケージが各配布ポイント上でアップデートされるようになります。配布操作は、クライアントシステムによる配布ポイントへのアクセスのために、ポイント上でそれらのパッケージが使用可能であることを確認します。配布ポイントの追加については、System Center Configuration Manager のオンラインマニュアルを参照してください。

① メモ: DTK .exe と CAB ファイルは Configuration Manager サイトサーバからインポートできます。

Dell EMC Server Deployment Pack では、統合された起動ポイントから各種ウィザードを展開して、通常のサーバ導入を実行できます。各ウィザードに順次アクセスするには、**Operating System Deployment (オペレーティングシステム導入)** ノードを右クリックして、**Dell PowerEdge Server Deployment (Dell PowerEdge サーバ導入)** を選択します。Configuration Manager 用 DSDP を使用すると、次のタスクを実行できます。

- Dell Deployment ToolKit (DTK) のインポート
- サーバ展開のための Dell ブートイメージの作成
- 『Dell Systems Management』DVD を使用した Dell ドライバパッケージのインポート
- オペレーティングシステム展開のタスクシーケンスの作成

① メモ: Configuration Manager コンソールは常に管理者権限を使用して起動します。

Dell EMC Server Deployment Pack の推奨 Dell Deployment Toolkit バージョン

DTK バージョン 6.0.1 および 5.5 の DSDP は、次の Configuration Manager バージョンをサポートします。

- System Center Configuration Manager
- Configuration Manager 2012 SP2
- Configuration Manager 2012 R2 SP1
- Configuration Manager 2012 R2
- Configuration Manager 2012 SP1
- Configuration Manager 2012

① メモ:

System Center Configuration Manager は WinPE 10 をサポートします。Configuration Manager 2012 SP2、Configuration Manager 2012 R2 SP1、および Configuration Manager 2012 R2 は WinPE 5.0 をサポートします。Configuration Manager 2012 SP1 は WinPE 4.0 をサポートします。

① **メモ:**

System Center Configuration Manager には Windows PE 10.0 ドライバのみが搭載されており、DTK バージョン 5.5 は Windows PE 10.0 ドライバの 32 ビットバージョンをサポートしないため 64 ビットオペレーティングシステムの導入のみがサポートされます。

① **メモ:**

Configuration Manager 2012 SP2、Configuration Manager 2012 R2 SP1、および Configuration Manager 2012 R2 には Windows PE 5.0 ドライバのみが搭載されており、DTK バージョン 5.5 は Windows PE 5.0 ドライバの 32 ビットバージョンをサポートしないため 64 ビットオペレーティングシステムの導入のみがサポートされます。

① **メモ:**

- Configuration Manager 2012 SP1 には Windows PE 4.0 ドライバのみが搭載されており、DTK バージョン 5.5 は Windows PE 4.0 ドライバの 32 ビットバージョンをサポートしないため 64 ビットオペレーティングシステムの導入のみがサポートされます。
- Configuration Manager 2012 には Windows PE 3.x ドライバのみが搭載されており、DTK バージョン 5.5 は 32 ビットバージョンおよび 64 ビットバージョンの Windows PE 3.x ドライバをサポートするため 32 ビットと 64 ビットオペレーティングシステムの両方の導入がサポートされます。
- 第 14 世代の PowerEdge サーバの場合は、DTK バージョン 6.0.1 を使用します。
- 第 10 世代から第 13 世代の PowerEdge サーバの場合は、DTK バージョン 5.5 を使用します。

System Center Configuration Manager、2012 SP2、2012 R2 SP1、2012 R2、2012 SP1、または 2012 を実行するシステムでの Dell EMC Server Deployment Pack の使用

本項には、System Center Configuration Manager、2012 SP2、2012 R2 SP1、2012 R2、2012 SP1、または 2012 を実行するシステムでの Dell EMC Server Deployment Pack の使用方法についての情報が記載されています。

トピック：

- Dell ドライバ CAB ファイル
- Dell Deployment Toolkit
- Dell サーバードライバパッケージのインポート

Dell ドライバ CAB ファイル

キャビネット (.cab) ファイルとは、ドライバやシステムファイルなどの他の配布ファイルを含む圧縮ファイルです。

Dell ドライバ CAB ファイルは、カスタマイズされた起動イメージを作成し、導入するための新しいレベルの柔軟性を提供します。

起動イメージの作成用の Dell ドライバ CAB ファイルのインポート

- 1 **Dell.com/support** から最新の CAB ファイルをダウンロードします。
- 2 **Operations Manager コンソール** を起動します。
- 3 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ > 概要 > アプリケーション管理 > パッケージ**と選択します。
- 4 **パッケージ** を右クリックし、**Dell PowerEdge サーバードライバ導入 > Deployment Toolkit 設定ウィザードの起動**と選択します。
Dell PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード 画面が表示されます。
- 5 **参照** をクリックし、ダウンロードした CAB ファイルに移動して選択します。
Dell PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード の **インポートする CAB の選択** セクションに、選択した CAB ファイルのバージョン、Windows PE バージョン、およびアーキテクチャが表示されます。

① **メモ:** WinPE ドライバがシステムにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。
このシステムには WinPE ドライバがすでに存在します。DTK または CAB ファイルをインポートすると既存の WinPE ドライバが上書きされます。続行しますか？

Dell ドライバ CAB ファイルは正常にインポートされました。起動イメージを作成するには、**Dell ドライバ CAB ファイルのアップグレード** セクションの手順 7 から 11 を実行します。

Dell ドライバ CAB ファイルのアップグレード

- 1 **Configuration Manager** コンソール を起動します。
- 2 左ペインで、**Software Library (ソフトウェアライブラリ) > Overview (概要) > Application Management (アプリケーション管理) > Packages (パッケージ)** を選択します。
- 3 **Packages (パッケージ)** を右クリックし、**Dell PowerEdge Server Deployment (Dell PowerEdge サーバ導入) > Launch Deployment Toolkit Configuration Wizard (Deployment Toolkit 設定ウィザードの起動)** を選択します。
PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード 画面が表示されます。サーバ上に既存の CAB ファイルパッケージがある場合は、CAB ファイルのバージョン、Windows PE バージョン、およびアーキテクチャが「Cab Selection for Import (インポートする CAB の選択)」セクションの下に表示されます。
- 4 **参照** をクリックし、ダウンロードした CAB ファイルに移動して選択し、**次へ** をクリックします。
選択した CAB ファイルのバージョン、Windows PE バージョン、およびアーキテクチャが「**インポートする CAB の選択**」セクションに表示されます。
- 5 **Boot Image Selection (起動イメージ選択)** で、次のオプションのいずれか 1 つを選択します。

① **メモ:** 次のどのオプションでも x64 起動イメージを選択する場合は、事前に 64 ビット CAB ファイルをインポートするようにしてください。

WAIK/ADK ツールからの起動イメージの使用	このオプションを使用して、x64 と x86 の両方について Dell 起動イメージを作成します。起動イメージ作成のソースは、その設定に応じて Windows 自動インストールキット (WAIK) または Windows アセスメント & デプロイメントキット (ADK) から取得され、すべての Windows PE カスタムインストールパッケージが起動イメージに追加されます。
Configuration Manager からの既存の起動イメージを使用	このオプションを使用すると、Configuration Manager 内の既存の起動イメージを選択できます。ドロップダウンリストから既存の起動イメージを選択し、それを使用して Dell 起動イメージを作成します。
カスタム起動イメージを使用	このオプションを使用して、他の場所からカスタム起動イメージをインポートします。Windows Imaging (WIM) ファイルの汎用命名規則 (UNC) パスを指定し、ドロップダウンリストから起動イメージを選択します。

① **メモ:**

- Windows WinPE の **Use a Custom Boot Image (カスタム起動イメージを使用)** オプションを選択した場合は、ファイナライズされたイメージのみがサポートされます。
- 起動イメージ作成のソースは、その設定に応じて Windows 自動インストールキット (WAIK) または Windows アセスメント & デプロイメントキット (ADK) から取得され、すべての Windows PE カスタムインストールパッケージが起動イメージに追加されます。WAIK および ADK バージョンの詳細については、『Microsoft Windows AIK』または『Windows ADK』のマニュアルを参照してください。
- CAB ファイルドライバで DTK .exe ドライバをアップグレードしている中で、CAB ファイルドライバで既存の DTK ツールとドライバが上書きされることがあります。

- 6 **Next (次へ)** をクリックします。
起動イメージプロパティ 画面が表示されます。
- 7 **起動イメージプロパティ** で、Dell 起動イメージの名前を入力します。
バージョンおよびコメントフィールドはオプションです。
- 8 **作成** をクリックします。
起動イメージ作成プロセスが開始されます。進捗バーに起動イメージ作成の進捗状態が表示されます。起動イメージが作成されると、**Summary (概要)** 画面に、DTK または CAB ファイルの詳細、成功状態などの情報を含む、起動イメージの詳細が表示されます。
- 9 新しくインポートされた各ドライバパッケージを右クリックして、配布ポイントのアップデートと管理作業を行います。
Dell ドライバ CAB ファイルからインポートされたドライバが WinPE に投入されます。この処理は、Configuration Manager および ADK によって異なります。起動イメージを作成する前に、これらの製品の制限事項を一読することが推奨されます。詳細については、technet.microsoft.com/en-us/library/hh825070.aspx を参照してください。

① **メモ:** CAB の設定詳細は、PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザードを使用してのみ、表示することができます。

Dell ドライバ CAB ファイルによる起動イメージのカスタマイズと OS の導入

Dell ドライバ CAB ファイルをインポートしたら、次のタスクを実行します。

- 1 PowerEdge サーバ導入用の起動イメージの作成。
- 2 起動イメージのデバッグのためのコマンドプロンプトの有効化。
- 3 コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート。
- 4 オペレーティングシステムイメージとドライバパッケージを適用するためのタスクシーケンス手順の設定。
- 5 タスクシーケンスの導入。
- 6 タスクシーケンスの導入方法。

PowerEdge サーバ導入用の起動イメージの作成

- 1 **Configuration Manager** コンソール を起動します。
- 2 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** > **概要** > **オペレーティングシステム** > **起動イメージ** の順に選択します。
- 3 **Boot Images**(起動イメージ) を右クリックし、**Dell PowerEdge Server Deployment**(**Dell PowerEdge サーバ導入**) > **Create Dell Server Boot Image** (**Dell サーバ起動イメージの作成**) を選択します。
Dell PowerEdge 起動イメージの作成ウィザード が表示されます。
- 4 **Boot Image Selection** (**起動イメージ選択**) で、次のオプションのいずれか 1 つを選択します。

① **メモ:** 次のどのオプションでも x64 起動イメージを選択する場合は、事前に DTK の 64 ビットバージョンをインポートするようにしてください。

WAIK/ADK ツールからの起動イメージの使用 このオプションを使用して、x64 と x86 の両方について Dell 起動イメージを作成します。起動イメージ作成のソースは、その設定に応じて Windows 自動インストールキット (WAIK) または Windows アセスメント & デプロイメントキット (ADK) から取得され、すべての Windows PE カスタムインストールパッケージが起動イメージに追加されます。

Configuration Manager からの既存の起動イメージの使用 このオプションを使用すると、Configuration Manager 内の既存の起動イメージを選択できます。ドロップダウンリストから既存の起動イメージを選択し、それを使用して Dell 起動イメージを作成します。

カスタム起動イメージを使用 このオプションを使用して、他の場所からカスタム起動イメージをインポートします。Windows Imaging (WIM) ファイルの汎用命名規則 (UNC) パスを指定し、ドロップダウンリストから起動イメージを選択します。

① **メモ:** Windows WinPE の **Use a Custom Boot Image** (**カスタム起動イメージを使用**) オプションを選択した場合は、ファイナライズされたイメージのみがサポートされます。

① **メモ:** Windows PE カスタムブートイメージには、XML、Scripting、および WMI のパッケージがインストールされています。これらのパッケージのインストールの詳細については、『*Microsoft Windows AIK*』または『*Windows ADK*』のマニュアルを参照してください。

- 5 **Next** (次へ) をクリックします。
起動イメージプロパティ画面が表示されます。
- 6 Dell 起動イメージの名前を入力します。
バージョンおよび**コメント**フィールドはオプションです。
- 7 **作成** をクリックします。
起動イメージ作成プロセスが開始されます。進捗バーに起動イメージ作成の進捗状態が表示されます。起動イメージが作成されると、**Summary** (**概要**) 画面に、DTK または CAB ファイルの詳細、成功状態などの情報を含む、起動イメージの詳細が表示されます。

- 新しくインポートされた各ドライバパッケージを右クリックして、配布ポイントのアップデートと管理作業を行います。

DTK または CAB からインポートされたドライバが WinPE に投入されます。この処理は、Microsoft System Center Configuration Manager および ADK によって異なります。起動イメージを作成する前に、これらの製品の制限事項を一読することが推奨されます。たとえば、technet.microsoft.com/en-us/library/hh825070.aspx です。

① | **メモ:** DTK の設定詳細は、PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザードを使用してのみ、表示することができます。

起動イメージのデバッグのためのコマンドプロンプトの有効化

① | **メモ:** WinPE 環境でタスクシーケンスワークフローまたは失敗をデバッグするには、<F8> を押します。

- Configuration Manager コンソール を起動します。
- 左ペインで、ソフトウェアライブラリ > 概要 > オペレーティングシステム > 起動イメージ の順に選択します。
- 起動イメージを右クリックし、プロパティ を選択します。
- プロパティ ウィンドウで カスタマイズ タブを選択し、コマンドプロンプトを有効にする (テストのみ) チェックボックスをオンにします。
- 適用 をクリックして配布に進み、起動イメージを SCCM の配布ポイントにアップデートします。詳細に関しては、[コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート](#) を参照してください。

コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート

- Configuration Manager コンソール を起動します。
- 左ペインで、ソフトウェアライブラリ > 概要 > アプリケーション管理 > パッケージ > Dell PowerEdge 導入 と選択します。
- PowerEdge Deployment Toolkit Integration を右クリックし、コンテンツの配布 をクリックします。
コンテンツの配布ウィザード が表示されます。
- PowerEdge Deployment Toolkit Integration を右クリックし、配布ポイントのアップデート をクリックします。
確認を求めるメッセージボックスが表示されます。
- OK をクリックして、配布ポイントをアップデートします。
- Next (次へ) をクリックして、ウィザードに従って配布ポイントを管理します。詳細については、System Center Configuration Manager のオンラインマニュアルを参照してください。
- 概要 > 起動イメージ > オペレーティングシステム と移動します。
- 作成した起動イメージを右クリックして、コンテンツの配布 をクリックします。
コンテンツの配布ウィザード 画面が表示されます。
- ウィザードに表示される手順に従って、配布ポイントを管理します。
- インポートしたドライバパッケージ用の配布ポイントのアップデートと管理を行うには、ドライバパッケージ > Dell PowerEdge ドライバパッケージ <Dell OpenManage バージョン> と移動します。
ドライバパッケージウィンドウが表示されます。
- 新しくインポートされた各ドライバパッケージを右クリックして、コンテンツの配布および配布ポイントのアップデート操作を行います。

オペレーティングシステムイメージとドライバパッケージを適用するためのタスクシーケンス手順の設定

本項では、オペレーティングシステムイメージの適用と Dell ドライバの追加に必要な手順を説明します。

オペレーティングシステムイメージの適用

- ① **メモ:** このタスクを始める前に、Configuration Manager のオペレーティングシステムイメージ ツリーに必要なオペレーティングシステムイメージ ファイル (.wim ファイル) があることを確認してください。

オペレーティングシステムイメージを適用するには、次の手順を実行します。

- 1 **タスクシーケンスエディタ** の左ペインにある **オペレーティングシステムの導入** で **オペレーティングシステムイメージの適用** をクリックします。
- 2 次のオプションのいずれかを選択します。
 - **取り込んだイメージからオペレーティングシステムを適用する**
 - **元のインストールソースからオペレーティングシステムを適用する**
- 3 オペレーティングシステムの場所を参照して選択し、**OK** をクリックします。

Dell ドライバパッケージの追加

- 1 **タスクシーケンスエディタ** の左側にある **オペレーティングシステムの展開** で **ドライバパッケージの適用** をクリックします。
- 2 **参照** をクリックします。
ドライバパッケージの選択 ウィンドウが表示されます。
- 3 **Dell PowerEdge ドライバパッケージ <OM バージョン>** をクリックします。
Dell EMC Server Deployment Pack に、使用可能なドライバパッケージのリストが表示されます。
- 4 PowerEdge サーバ用のパッケージ (**Dell R720-Microsoft Windows 2008x86 OMx.x version (Dell R720-Microsoft Windows 2008x86 OMx.x バージョン)** など) を選択します。
- 5 **適用** をクリックします。

- ① **メモ:** オペレーティングシステムを導入したら、インストールされている大容量ストレージドライバと、タスクシーケンスで指定されているドライバとが同じであるようにしてください。異なる点がある場合は、手動でドライバをアップデートしてください。

タスクシーケンスの導入

タスクシーケンスの導入方法

これでタスクシーケンスの準備ができました。次のいずれかの方法を使って作成したタスクシーケンスを導入します。

- CD を使った導入
- USB を使った導入
- PXE を使った導入

詳細については、System Center Configuration Manager のオンラインマニュアルを参照してください。

Dell Deployment Toolkit

Dell Deployment Toolkit (DTK) には、一連のユーティリティ、サンプルスクリプト、およびサンプル設定ファイルが含まれており、Dell システムの導入および設定に使用できます。DTK を使用して、現在の導入プロセスを変更せずに信頼性の高い方法で、プレオペレーティングシステム環境での多数のシステム導入用に、スクリプトベースと RPM ベースのインストールを構築できます。DTK を使用すると、Dell システムに BIOS モードで、オペレーティングシステムをインストールできます。

- ① **メモ:** 起動に必要なドライバが含まれているフォルダが存在しない場合は、ウィザードにエラーメッセージが表示されます。

ハードウェア設定および OS 導入用の DTK パッケージのインポート

- 1 DTK .exe を Dell.com/support からダウンロードします。
 - ① **メモ:** サイトサーバから DTK パッケージをインポートしていることを確認します。
- 2 **Operations Manager** コンソール を起動します。
- 3 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** > **概要** > **アプリケーション管理** > **パッケージ** と選択します。
- 4 **Packages** (パッケージ) を右クリックし、**Dell PowerEdge Server Deployment (Dell PowerEdge サーバ導入)** > **Launch Deployment Toolkit Configuration Wizard (Deployment Toolkit 設定ウィザードの起動)** を選択します。
Dell PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード 画面が表示されます。
- 5 **参照** をクリックし、ダウンロードした DTK 自己解凍型 zip ファイルに移動して選択します。
インポート用に選択された DTK フィールドに、選択された DTK のバージョン、Windows PE のバージョン、およびアーキテクチャが表示されます。
 - ① **メモ:** WinPE ドライバがシステムにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。
お使いのシステムには WinPE ドライバが既に存在します。CAB ファイルをインポートすると既存の WinPE ドライバが上書きされ
ます。操作を続行してよろしいですか？
- 6 起動イメージの作成については、「[PowerEdge サーバ導入用の起動イメージの作成](#)」の項の手順 4 ~ 8 に従ってください。

DTK パッケージのアップグレード

- 1 **Configuration Manager** コンソール を起動します。
- 2 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** > **概要** > **アプリケーション管理** > **パッケージ** と選択します。
- 3 **Packages** (パッケージ) を右クリックし、**Dell PowerEdge Server Deployment (Dell PowerEdge サーバ導入)** > **Launch Deployment Toolkit Configuration Wizard (Deployment Toolkit 設定ウィザードの起動)** を選択します。
PowerEdge Deployment ToolKit Configuration Wizard (PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード) 画面が表示されます。サーバ上に既存の DTK パッケージが存在する場合は、**DTK present on system (システムに存在する DTK)** の下にその DTK のバージョン、Windows PE のバージョン、およびアーキテクチャが表示されます。
- 4 **参照** をクリックし、ダウンロードした DTK 自動解凍型 zip ファイルに移動して選択します。
インポート用に選択された DTK フィールドに、選択された DTK のバージョン、Windows PE のバージョン、およびアーキテクチャが表示されます。
- 5 **Next** (次へ) をクリックします。
- 6 **起動イメージ選択** 画面が表示されます。
- 7 起動イメージプロパティで、「[PowerEdge サーバ導入用の起動イメージの作成](#)」の項にある起動イメージの作成手順 3 ~ 8 に従います。

DTK による起動イメージのカスタマイズ、ハードウェアの設定、および OS の導入

DTK パッケージをインポートしたら、次のタスクを実行します。

- 1 [PowerEdge サーバ導入用の起動イメージの作成](#)
- 2 [起動イメージのデバッグのためのコマンドプロンプトの有効化](#)
- 3 [コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート](#)
- 4 [サーバーのハードウェアコンポーネントの構成](#)
- 5 [タスクシーケンス操作の設定](#)

- 6 Array Builder の使用
- 7 RAID、DRAC、iDRAC 用のタスクシーケンスの作成
- 8 オペレーティングシステムイメージとドライバパッケージを適用するためのタスクシーケンス手順の設定
- 9 タスクシーケンスの導入
- 10 タスクシーケンスの導入方法

システムロックダウンモード

システムロックダウンモード機能は、第 14 世代 PowerEdge サーバの iDRAC で使用できます。この機能を有効にすると、システム構成変更タスクがロックされます。この機能は、意図しない変更からシステムを保護するためのものです。

オペレーティングシステムの導入時のタスクシーケンスに `iDRACLockDownMode` 変数を設定する必要があります。

システムロックダウンモードを有効にすると、次の機能が制限されます。

- すべてのシステム構成変更タスク、**Set (設定)** 操作を実行できなくなります。
- OS 導入

① メモ:

- システムロックダウンモードで OS の導入を制限するには、タスクシーケンスで導入されるセクションに値 0 の `iDRACLockDownMode` 変数を追加する必要があります。`iDRACLockDownMode` 変数の追加については、「[iDRACLockDownMode 変数の追加](#)」を参照してください。
- 次のようなシナリオのときは、オペレーティングシステムの導入時のタスクシーケンスに `iDRACLockDownMode` 変数を設定しないでください。
 - DSDP がシステムロックダウンモード機能をチェックせず、ハードウェア構成が何も選択されていない場合にも OS 導入を続行する。
 - DSDP がシステムロックダウンモード機能をチェックせず、CAB ファイルが存在する場合にも OS 導入を続行する。

iDRACLockDownMode 変数の追加

iDRACLockDownMode 変数を追加するには、次の手順を実行します。

- 1 **Configuration Manager コンソール** を起動します。
- 2 左ペインで、**Software Library (ソフトウェアライブラリ) > Overview (概要) > Operating Systems (オペレーティングシステム) > Task Sequences (タスクシーケンス)** の順に選択します。
- 3 目的のタスクシーケンスを右クリックしてから **Edit (編集)** をクリックします。
タスクシーケンスエディタ ウィンドウが表示されます。
- 4 **Deploy Operating System (オペレーティングシステムの導入)** をクリックします。
- 5 **Options (オプション) > Add Condition (条件の追加) > Task Sequence Variable (タスクシーケンス変数)** オプションをクリックします。
Task Sequence Variable (タスクシーケンス変数) ウィンドウが表示されます。
- 6 **Task Sequence Variable (タスクシーケンス変数)** ウィンドウに次の情報を入力します。
 - a **Variable (変数)** テキストボックスで、変数の名前 `iDRACLockDownMode` を入力します。
 - b **Condition (条件)** ドロップダウンメニューから、`equals (等しい)` を選択します。
 - c **Value (値)** テキストボックスに 0 を入力します。
 - d **OK** をクリックします。
- 7 **Apply (適用)**、**OK** の順にクリックします。

サーバーのハードウェアコンポーネントの構成

お使いのサーバー上にある様々なコンポーネントを構成します。

タスクシーケンスの作成

サーバーを設定するためのタスクシーケンスは、次の 2 とおりの方法で作成できます。

- PowerEdge サーバー展開テンプレートを使ってデルのタスクシーケンスを作成する。
- カスタムタスクシーケンスを作成する。

タスクシーケンスは、コマンドの成功または失敗に関わらず、次のタスクシーケンスの手順に進みます。

Dell 固有のタスクシーケンスの作成

PowerEdge サーバー展開テンプレートを使って Dell のタスクシーケンスを作成するには、次の手順に従ってください。

- 1 **Configuration Manager コンソール** を起動します。
Configuration Manager コンソール 画面が表示されます。
- 2 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** > **概要** > **オペレーティングシステム** > **タスクシーケンス**の順に選択します。
- 3 **タスクシーケンス** を右クリックしてから、**ベアメタルサーバー展開** > **Dell PowerEdge サーバー展開テンプレートの作成**をクリックします。
Dell PowerEdge サーバーの展開タスクシーケンスウィザードが表示されます。
- 4 **タスクシーケンス名** フィールドにタスクシーケンスの名前を入力します。
- 5 ドロップダウンリストから使用する起動イメージを選択します。
① | メモ: 作成した Dell カスタムブートイメージの使用が推奨されます。
- 6 **サーバーハードウェア設定** で、このタスクシーケンスで設定するハードウェアアイテムを選択します。
- 7 **オペレーティングシステムのインストール** で、次のオプションからオペレーティングシステムのインストールタイプを選択します。
 - **OS WIM イメージを使用**
 - **スクリプトによる OS インストール**
- 8 **使用するオペレーティングシステムパッケージ** ドロップダウンメニューから、オペレーティングシステムパッケージを選択します。
- 9 使用するパッケージに **unattend.xml** が含まれている場合は、**unattend.xml 情報を含むパッケージ** メニューからそれを選択してください。それ以外の場合は、**今は選択しない** を選択します。
- 10 **作成** をクリックします
作成されたタスクシーケンス ウィンドウが、作成したタスクシーケンスの名前と共に表示されます。
- 11 表示される確認メッセージボックスで、**閉じる** をクリックします。

カスタムタスクシーケンスの作成

- 1 **Operations Manager コンソール** を起動します。
Configuration Manager コンソール 画面が表示されます。
- 2 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** > **概要** > **オペレーティングシステム** > **タスクシーケンス**の順に選択します。
- 3 **タスクシーケンス** を右クリックし、**タスクシーケンスの作成** をクリックします。
タスクシーケンスの作成 ウィザードが表示されます。
- 4 **新しいカスタムタスクシーケンスの作成** を選択してから、**次へ** をクリックします。

- 5 **タスクシーケンス名** テキストボックスにタスクシーケンスの名前を入力します。
- 6 作成した Dell 起動イメージを指定し、**次へ** をクリックします。
設定の確認 画面が表示されます。
- 7 設定内容を確認して **次へ** をクリックします。
- 8 表示される確認メッセージボックスで、**閉じる** をクリックします。

タスクシーケンスの編集

- 1 **Operations Manager コンソール** を起動します。
Configuration Manager コンソール 画面が表示されます。
- 2 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** > **オペレーティングシステム** > **タスクシーケンス** の順に選択します。
- 3 編集するタスクシーケンスを右クリックし、**編集** をクリックします。
タスクシーケンスエディタ ウィンドウが表示されます。
- 4 **追加** > **Dell 展開** > **Dell Lifecycle Controller からドライバを適用** をクリックします。
Dell EMC Server Deployment Pack のカスタム処置がロードされます。これで、タスクシーケンスへの変更を行うことができます。

① メモ:

- タスクシーケンスを初めて編集する際には、**Setup Windows, and Configuration Manager (Windows および Configuration Manager のセットアップ)** というエラーメッセージが表示されます。このエラーを解決するには、**Configurations Manager Client Upgrade package (Configuration Manager クライアントのアップグレードパッケージ)** を作成して選択します。パッケージの作成に関する詳細については、Technet.microsoft.com にある Configuration Manager のマニュアルを参照してください。
- タスクシーケンスの *Set RebootStep Variable (RebootStep 変数の設定)* の手順は、どの設定に対しても有効になっているようにしてください。

タスクシーケンスへの Diskpart Clean の追加

- 1 **タスクシーケンスエディタ** で、**追加** > **一般** > **コマンドライン** とクリックします。
- 2 **名前** テキストボックスに、コマンドラインの名前として **Diskpart Clean** と入力します。
- 3 入力コマンドラインオプション `diskpartclean.bat` を選択します。
- 4 **Dell PowerEdge Deployment** > **Dell PowerEdge Custom Reboot Script** パッケージを選択します。

タスクシーケンス処置の設定

タスクシーケンスエディタ で **PowerEdge サーバー設定** を選択すると、次のタブが表示されます。

- **処置設定**
- **変数置換**
- **ログ/リターンファイル**

本項では、**処置設定** タブについて説明します。**変数置換** タブに関する情報は、**変数置換** を参照してください。**ログ/リターンファイル** タブに関する情報は、**ログ/リターンファイル** を参照してください。

静的 IP ネットワークでのタスクシーケンスの導入

タスクシーケンスの導入には、次の手順が必要です。

- **.CSV ファイルの準備**

- ターゲットのインポート
- OS 導入用のブータブルメディアの作成
- OS 導入用のブータブルメディアの使用

.CSV ファイルの準備

各ターゲットに行を追加することによって、C:\Program Files\Microsoft Configuration Manager\OSD\Lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\NetworkSetting\Samples\MACIPMap.csv にある CSV ファイルをアップデートします。

- ① **メモ:** 各ターゲットの MAC アドレスが、接続済みかつネットワーク上でアクティブなターゲットの NIC ポートの MAC アドレスと一致していることを確認します。
- ① **メモ:** EnableDHCP が true の場合、IPAddress、SubnetMask、および IPGateway の各値は無視されますが、DNS フィールドは WinPE および ポスト OSD ネットワーク設定の両方の DNS サーバーの設定に使用されます。

Importing targets

- 1 In the left side of Configuration Manager, expand **Assets and Compliance**, right-click **Devices**, and select **Import Computer Information** wizard.
- 2 Select **Import computers using a file** and click **Next**.
- 3 Enter the file path in the **Import file** text box or click **Browse** to navigate to the location where the file you want import is stored.
- 4 Select the **This file has column headings** check box.
- 5 From the **Assign As** drop-down list select **Variable** and click **Next**.
- 6 In the **Choose Target Collection** window, select the required option and click **Next**.
 - ① **NOTE:** If an existing device has the same name, it is over-written.
- 7 In the **Summary** window, review the content and click **Next**. The wizard imports the computers from the file and displays a confirmation message.

OS 導入用のブータブルメディアの作成

- 1 Configuration Manager の左側で **タスクシーケンス** を右クリックし、**タスクシーケンスメディアの作成** を選択します。
- 2 **Select Media (メディアの選択)** ウィンドウで、**Bootable Media (ブータブルメディア)** を選択します。
- 3 **オペレーティングシステムの無人導入を許可する** チェックボックスを選択し、**次へ** をクリックします。
- 4 **メディア管理、メディアの種類、セキュリティ、および起動イメージ** ウィンドウで、一般的な環境に基づいてオプションを選択し、**次へ** をクリックします。
- 5 **カスタマイズ** ウィンドウで、**起動前コマンドを有効にする** チェックボックスを選択します。
- 6 **コマンドライン入力** テキストボックスに、次のコマンドを入力します。


```
cscript.exe UpdateNI.vbs
```
- 7 **起動前コマンドにファイルを含める** チェックボックスを選択します。
- 8 **パッケージ** の横にある **設定** をクリックして、**Dell PowerEdge 導入 > Dell PowerEdge 起動ネットワーク設定** を選択します。
- 9 **配布ポイント** テキストボックスの横にある **参照** をクリックし、該当する配布ポイントを選択して **次へ** をクリックします。
- 10 **概要** ウィンドウで内容を確認して **次へ** をクリックします。
ブータブルメディアが作成され、確認メッセージが表示されます。

- ① **メモ:** 新しいエントリが MACIPMAP.csv に追加された場合は、PowerEdge 起動ネットワーク設定-<サイトコード> を 配布ポイント にアップデートして新しいタスクシーケンスのメディアを作成します。

OS 導入用のブータブルメディアの使用

オペレーティングシステムの導入は、タスクシーケンスに含まれているタスクが必要としなければ、無人で行われます。たとえば、Windows シリアル番号がタスクシーケンスにない場合、Windows オペレーティングシステムは導入プロセス中にその番号の入力を待ちます。

- ① **メモ:** サイトサーバーのタスクシーケンスで適切なドライバパッケージを選択する場合に限り、.CSV ファイルに入力されたすべてのサーバーに対して同じブータブルメディアを使用することができます。

システム BIOS の設定

- 1 タスクシーケンスを右クリックして、**編集** をクリックします。
- 2 **タスクシーケンスエディタ** 左側の **ハードウェアの構成 > 手順 1** で、**BIOS Config の設定 (ini ファイル) > 処置設定** タブをクリックします。
- 3 **設定処置タイプ** ドロップダウンメニューから **BIOS Config (ini ファイル)** を選択します。
表示 ボタンが有効になります。

- ① **メモ:** CLI オプションを使用してシステムを設定する場合は、BIOS Config (コマンドライン) も選択可能です。CLI オプションの使用の詳細に関しては、**コマンドラインオプション**を参照してください。

- 4 **表示** をクリックして **ini** ファイルを開きます。必要な設定に応じて変更を行い、ファイルを保存します。
ini ファイル形式の詳細に関しては、**Dell.com/support/manuals** の『*Dell OpenManage Deployment Toolkit* コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』にある「サンプルファイル形式」の項を参照してください。
- 5 ポップアップメッセージの **OK** をクリックしてこのカスタム処置用のツールキットパッケージのファイルに保存するを選択し、**OK** をクリックします。
- 6 デフォルトディレクトリにファイルを保存します。
デフォルトディレクトリの例として、`\\<site server hostname>\sms_<site code>\OSD\lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\DTK\Template\Configs\Syscfg` があります。
- 7 **適用** をクリックして編集済みファイルをタスクシーケンスに保存します。
- 8 **処置** ドロップダウンリストから **設定** を選択します。
設定ファイル / コマンドラインパラメータ フィールドが有効になります。詳細については、**設定ファイル / コマンドラインパラメータのオプション**を参照してください。

または、ドロップダウンリストから **<設定ファイルの作成>** オプションを選択して、**ini** ファイルを最初から作成することもできます。

ファイルまたはコマンドラインパラメータのオプションの設定

次の 3 つのオプションから選択できます。

- **<設定ファイルの作成>**
- **<設定ファイルのインポート>**
- **<syscfg.ini> の編集**

上記のいずれかのオプションを使用して .ini ファイルを作成した後、**タスクシーケンスエディタ** ウィンドウで **適用** をクリックします。**BIOS Config の設定 (ini ファイル)** のタスクシーケンスが作成されます。

- △ **注意:** パッケージ内の新しいファイルをアップデートまたは保存しても、そのファイルはすべての配布ポイントにおいて自動的にアップデートされません。その新しいファイルを必要とするシステムでのファイルの可用性を確実にするには、ソフトウェア配布 → パッケージ → Dell PowerEdge 導入 → Dell PowerEdge Deployment ToolKit Integration <バージョン> ノードから、配布ポイントをアップデートする必要があります。

<設定ファイルの作成>

<設定ファイルの作成> オプションを選択すると、**作成** ボタンが表示されます。

- 1 **作成** をクリックします
- 2 **設定ファイルエディタ** で、次のいずれか 1 つのオプションを実行します。
 - **ファイルのインポート** をクリックして既存の .ini ファイルをディレクトリからインポート。
 - **設定ファイルエディタ** フィールドでオンライン .ini を作成し、**OK** をクリック。これにより、作成した .ini ファイルを、希望のローカルドライブまたはネットワーク共有に保存するためのプロンプトが表示されます。
- 3 **OK** をクリックしてこれらの変更をツールキットパッケージ内の既存ファイルに保存する オプションを選択した場合、**OK** をクリックすると設定がファイルにエクスポートされます。

<設定ファイルのインポート>

<設定ファイルのインポート> オプションを選択すると、**インポート** ボタンが表示されます。**インポート** をクリックして既存の .ini ファイルをインポートします。

<syscfg.ini> の編集

これは BIOS .ini ファイルのサンプルです。

① **メモ:** ini ファイル形式の詳細については、Dell.com/support/manuals で入手できる『*Dell OpenManage Deployment Toolkit* コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』にある「サンプルファイル形式」の項を参照してください。

- 1 **表示** をクリックして、既存の syscfg.ini ファイルを表示します。
- 2 **設定ファイルエディタ** ウィンドウで syscfg.ini ファイルを編集し、**OK** をクリックしてこれらの変更をツールキットパッケージ内の既存ファイルに保存するオプションを選択して **OK** をクリックします。

<raidcfg.ini> の編集

これは raidcfg.ini ファイルのサンプルです。

① **メモ:** ini ファイル形式の詳細については、Dell.com/support/manuals で入手できる『*Dell OpenManage Deployment Toolkit* コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』にある「サンプルファイル形式」の項を参照してください。

- 1 **表示** をクリックして、既存の raidcfg.ini ファイルを表示します。
- 2 **設定ファイルエディタ** ウィンドウで raidcfg.ini ファイルを編集し、**OK** をクリックしてこれらの変更をツールキットパッケージ内の既存ファイルに保存するオプションを選択してから **OK** をクリックします。
上記オプションのいずれかを用いて .ini ファイルを作成した後、**タスクシーケンスエディタに適用** ウィンドウをクリックします。**RAID Config** の設定(ini file) のタスクシーケンスが作成されます。

XML 入力を使用したシステム BIOS の設定

XML 入力を使用して、システム BIOS を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 タスクシーケンスを右クリックして、**編集** をクリックします。
- 2 **タスクシーケンスエディタ** 左側の **ハードウェアの構成 > 手順 1** で、**BIOS Config の設定 (xml ファイル) > 処置設定** タブをクリックします。
- 3 **設定処置タイプ** ドロップダウンメニューから **BIOS Config (xml ファイル)** を選択します。
- 4 **設定ファイル / コマンドラインパラメータ** ドロップダウンリストから **syscfg_xml.xml** を選択します。

表示 ボタンが有効になります。

- 5 **表示** をクリックして **設定ファイルエディタ** で **XML** ファイルを開きます。必要な設定に応じて変更を行い、ファイルを保存します。

ini ファイル形式に関する情報は、次を参照してください。

- Dell 第 12 世代システムでは、『*Dell OpenManage Deployment Toolkit* バージョン 4.4 コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』の「サンプルファイル形式」
- Dell 第 13 世代システムでは、『*Dell OpenManage Deployment Toolkit* バージョン 5.0.1 コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』の「サンプルファイル形式」

を Dell.com/support/manuals で参照してください。

- 6 **OK** をクリックしてこのカスタム処置用のツールキットパッケージのファイルに保存するを選択し、**OK** をクリックして変更を保存してから、**タスクシーケンスエディタ** に戻って **OK** をクリックします。
- 7 デフォルトディレクトリにファイルを保存します。
デフォルトディレクトリの例として、\\<site server hostname>\sms_<site code>\OSD\lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\DTK\Template\Configs\Syscfg があります。
- 8 **適用** をクリックして編集済みファイルをタスクシーケンスに保存します。
- 9 **処置** ドロップダウンリストから **設定** を選択します。

設定ファイル / コマンドラインパラメータ フィールドが有効になります。詳細については、[設定ファイル / コマンドラインパラメータのオプション](#)を参照してください。

または、ドロップダウンから **<設定ファイルの作成>** オプションを選択して、XML ファイルを最初から作成することもできます。

XML 入力を使用した iDRAC 7 と iDRAC 8 の設定

XML 入力を使用して iDRAC 7 と iDRAC 8 を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 タスクシーケンスを右クリックして、**編集** をクリックします。
 - 2 **タスクシーケンスエディタ** 左側の **ハードウェアの構成 > 手順 1** で、**iDRAC7 Config の設定 (xml ファイル) > 処置設定** タブをクリックします。
iDRAC 8 では、**ハードウェアの構成 > 手順 1** とクリックし、**iDRAC 8 Config の設定 (xml ファイル) > 処置設定** をクリックします。
 - 3 **設定処置タイプ** ドロップダウンメニューから **iDRAC 7 Config (xml ファイル)** を選択します。
iDRAC 8 には **iDRAC 8 Config (xml ファイル)** オプションを選択します。
 - 4 **設定ファイル / コマンドラインパラメータ** ドロップダウンリスト から **idrac_xml.xml** を選択します。
表示 ボタンが有効になります。
 - 5 **表示** をクリックして XML ファイルを開きます。必要な設定に応じて変更を行い、ファイルを保存します。
XML ファイル形式のついての情報は、次を参照してください。
 - Dell 第 12 世代システムでは、『*Dell OpenManage Deployment Toolkit* バージョン 4.4 コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』の「サンプルファイル形式」
 - Dell 第 13 世代システムでは、『*Dell OpenManage Deployment Toolkit* バージョン 4.4 コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』の「サンプルファイル形式」
- を Dell.com/support/manuals で参照してください。
- 6 **OK** をクリックしてこのカスタム処置用のツールキットパッケージのファイルに保存するを選択して変更を保存し、**タスクシーケンスエディタ** に戻って **OK** をクリックします。
 - 7 デフォルトディレクトリにファイルを保存します。
デフォルトディレクトリの例として、`\\<site server hostname>\sms_<site code>\OSD\lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\DTK\Template\Configs\Syscfg` があります。
 - 8 **適用** をクリックして編集済みファイルをタスクシーケンスに保存します。
 - 9 **処置** ドロップダウンリストから **設定** を選択します。
設定ファイル / コマンドラインパラメータ フィールドが有効になります。詳細については、[設定ファイル / コマンドラインパラメータのオプション](#)を参照してください。

または、ドロップダウンリストから **<設定ファイルの作成>** オプションを選択して、XML ファイルを最初から作成することもできます。

起動順序の設定

- 1 タスクシーケンスを右クリックして、**編集** をクリックします。
タスクシーケンスエディタ ウィンドウが表示されます。
- 2 **追加 > Dell 導入 > PowerEdge サーバー設定** とクリックします。
Dell EMC Server Deployment Pack のカスタム処置がロードされます。
- 3 **設定処置タイプ** ドロップダウンリストから **起動順序** を選択します。
- 4 **処置** ドロップダウンリストから **設定** を選択します。
- 5 **Configuration file/Command line parameters (設定ファイル/コマンドラインパラメーター)** で `select --bootseq=virtualcd.slot.1` を実行します。これにより、起動順序は、仮想 CD から起動するように設定されます。デバイスの起動デバイス ID の取得については、「[Retrieving Boot Device IDs \(起動デバイス ID の取得 \)](#)」を参照してください。

① **メモ:** `--bootseq` オプションのパラメーターに関する情報については、『*Dell Deployment Toolkit CLI* ガイド』を参照してください。

起動デバイス ID の取得

- 1 DSDP を使用してタスクシーケンスを作成します。
 - a **Dell タスクシーケンスの作成** ウィザードを起動します。
 - b **サーバーハードウェア** で、**BIOS config の設定** を選択します。
 - c 適切な起動イメージ、資格情報、およびその他入力情報を選択します。
 - d **タスクシーケンスの作成と保存** をクリックします。
- 2 タスクシーケンスを編集して、**処置** ドロップダウンリストから **取得** を選択します。
 - a タスクシーケンスを右クリックして、**編集** をクリックします。
 - b OS の導入は不要であることから、**リファレンスマシンの構築** 手順を削除します。
 - c **BIOS Config の設定 (ini ファイル)** をクリックします。
 - d 処置を **取得** に変更します。
 - e **設定ファイル / コマンドラインパラメータ** にファイル名を入力します。このファイル名は、タスクシーケンス実行後に作成される BIOS config ファイルに割り当てられます。
 - f **ログ / リターンファイル** タブで、ファイルを作成する場所の共有パスと資格情報を入力します。
 - g タスクシーケンスを保存します。
- 3 起動順序を設定する必要があるターゲットでタスクシーケンスを実行します。
前述の共有場所に、ファイルが指定したファイル名で作成されます。
- 4 config ファイルから、**bootseq** 属性用の値を選択します。例えば、`bootseq=nic.emb.1,cdrom.emb.0,hdd.emb.0,virtualfloppy.slot.1,virtualcd.slot.1` です。
コンマで区切られた値は、ターゲット内の個々の起動可能デバイスです。
- 5 起動順序に設定するデバイスのデバイス ID を選択します。例えば、`hdd.emb.0` です。

RAID Config (ウィザード) を使用した RAID の設定

RAID Config (ウィザード) を使用することにより、新しい設定ファイルを作成、または既存の設定をインポートして、システム上に RAID を設定することができます。

RAID Config (ウィザード) を使用して新規設定ファイルを作成することにより、RAID を設定します。**タスクシーケンスエディタ** の左側にある **ハードウェアの構成 > 手順 1** で、**RAID Config の設定 (ウィザード)** をクリックします

設定ファイル / コマンドラインパラメータ には、次の選択可能な 3 つのオプションがあります。

- <設定ファイルの作成>
- <設定ファイルのインポート>
- <サンプル.xml>

<設定ファイルの作成>

RAID 向けの手順を作成するには、次を実行します。

- 1 ドロップダウンメニューからサンプル ini ファイルを選択します。
表示 ボタンが有効になります。
- 2 **表示** をクリックして ini ファイルを開きます。必要な設定に応じて変更を行い、ファイルを保存します。
ini ファイル形式の詳細については、『*Dell OpenManage Deployment Toolkit* バージョン 4.4 コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』の「サンプルファイル形式」を参照してください。このガイドには URL : www.dell.com/support/Manuals からアクセスすることができます。

Array Builder < XML ファイル名 >.xml ウィンドウが表示されます。

- 3 **OK** をクリックしてこのカスタム処置用のツールキットパッケージのファイルに保存する を選択し、**OK** をクリックして **タスクシーケンスエディタ** ウィンドウに戻ります。
- 4 **OK** をクリックします。
- 5 デフォルトディレクトリにファイルを保存します。
デフォルトディレクトリの例として、\\<site server hostname>\sms_<site code>\OSD\lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\DTK\Template\Configs\Raidcfg があります。
- 6 **適用** をクリックして編集済みファイルをタスクシーケンスに保存します。

または、ドロップダウンから **<設定ファイルの作成>** オプションを選択して、**ini** ファイルを最初から作成することもできます。

<設定ファイルのインポート>

- 1 **設定ファイル / コマンドラインパラメータ** ドロップダウンメニューから **<設定ファイルのインポート>** を選択します。
- 2 **インポート** をクリックします。
- 3 インポートする設定ファイルの場所を指定して **開く** をクリックします。

<サンプル.xml>

- 1 **設定ファイル / コマンドラインパラメータ** ドロップダウンリストから、**<サンプル.xml>** を選択します。
- 2 **表示** をクリックします。
サンプル.xml 用に **Array Builder** ウィザードが開きます。
- 3 **サンプル.xml** の編集については、**<設定ファイルの作成>** を参照してください。

Array Builder の使用

Array Builder では、利用可能なすべての RAID 設定、あらゆるサイズの論理ドライブ / 仮想ディスクを用いて、または空き容量のすべてを使用してアレイを定義でき、個別アレイにホットスペアを割り当てたり、コントローラにグローバルホットスペアを割り当てたりすることが可能になります。

Array Builder のしくみ

ターゲットサーバーでタスクシーケンスを実行すると、アレイ設定ユーティリティがサーバー上の既存のコントローラ、および各コントローラに接続されたディスクを検出します。次に、**Array Builder- <xml ファイル名>.xml > コントローラ設定** ウィンドウ内で、カスタム処置がユーティリティが検出した物理構成と選択した論理設定との一致を試みます。使用可能なオプションは次のとおりです。

- **内蔵コントローラ (マザーボード上) を選択する**
- **スロットに取り付けられているコントローラを選択する**
- **<ディスク数> のディスクが接続されているコントローラを選択する**
- **設定に関係なく、システム内の残りのすべてのコントローラを選択する**

これらのアレイ設定ルールは、お使いのアレイコントローラがどのように設定されているかを視覚的に見ることができるグラフィックな論理レイアウトを使って定義されます。ルールは **Array Builder** ツリーに表示されている順に処理されるため、ルールの優先順位を正確に把握できます。

サーバー上で検出されたタスクシーケンス変数に基づいて設定ルールを適用することもできます。これによって、検出されたハードウェアが同一であっても、異なるサーバーに異なる設定を定義できます。

コントローラ

コントローラエレメントには、変数条件エレメントが含まれます。コントローラは、次の構成タイプのひとつです。

- 内蔵コントローラ
- スロット「X」にあるコントローラ
- 「X」台のディスクを持つコントローラ
- 「X」台以上のディスクを持つコントローラ
- 残りのすべてのコントローラ

導入処置の **<設定ファイルの作成>** から **Array Builder** を起動すると、デフォルトの内蔵コントローラが作成されます。

コントローラの作成時、有効な設定を確実にするために、デフォルトの変数条件、アレイ、およびディスクが作成されます。コントローラを未設定（ディスクは非 RAID に設定）のままにする、アレイを追加する、またはその他の処置を行うこともできます。

① **メモ:** ディスクが非 RAID に設定されている場合、変数の条件が満たされないと既存の RAID がクリアされます。

コントローラの追加

- 1 リストからコントローラを選択するか、または内蔵コントローラを選択します。
コントローラ ドロップダウンメニューが有効化されます。
- 2 **コントローラ > 新しいコントローラ** をクリックします。
コントローラ設定 ウィンドウが表示されます。
- 3 **コントローラの選択条件** で次のいずれかのオプションを選択します。
 - スロットに取り付けられているコントローラを選択する** コントローラのスロット番号を入力します。
 - <正確な台数、最低台数>、<台数>のディスクが接続されているすべてのコントローラを選択する** 選択したディスクの正確な台数、または最低台数に一致するコントローラのすべてを選択するルールを設定します。
 - 設定に関係なく、システム内の残りのすべてのコントローラを選択する** 設定に関係なく、システム内の残りのコントローラすべてを選択する規則を設定します。
- 4 **変数の一致条件** で、選択した特定の条件に一致する場合のみこの設定を適用するようにルールを設定できます。**変数の時にのみこの設定を適用** を選択して、このルール設定オプションを有効にします。
- 5 **OK** をクリックします。

コントローラの編集

コントローラを編集するには、そのコントローラを選択し、**コントローラ > コントローラの編集** をクリックします。**コントローラ設定** ウィンドウで、お使いのコントローラに対する変更を行うことができます。

コントローラの削除

- 1 コントローラを選択し、**コントローラ > コントローラの削除** をクリックします。

接続されているすべてのアレイおよびディスクが削除されるという警告メッセージが表示されます。

- 2 **はい** をクリックして削除するか、**いいえ** をクリックしてキャンセルします。

① **メモ:** サーバー上には、少なくとも1つのコントローラが必要です。コントローラが1つだけ残っている場合にそのコントローラを削除すると、最後のコントローラが削除されたためにデフォルトのコントローラが挿入されたというメッセージが表示されます。

変数条件

アレイおよび論理ドライブの設定を異なる状況に適用できるようにするため、変数評価を利用することができます。

変数条件の要素には、アレイやグローバルホットスペアなどがあり、次の2タイプに分類されます。

- **変数未定義** : すべてのコントローラに挿入されるデフォルト設定です。この設定は削除したり、その順番を最終の位置から移動することはできません。
- **変数定義済み** : すべての変数が、事前に定義された演算子を使って値と比較されます。

新しい変数条件の追加

内蔵コントローラに新しい変数条件を追加するには、次の手順を実行します。

- 1 **内蔵コントローラ** を展開し、**[変数条件が未定義]** を選択します。
- 2 **変数 > 新しい変数条件** をクリックします。
変数条件設定 ウィンドウが表示されます。
- 3 **変数一致条件** で、選択した特定の条件に一致する場合にのみこの変数が適用されるようにルールを設定できます。
- 4 **OK** をクリックして変数条件を適用するか、**キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

変数条件の編集

- 1 変数条件を選択し、**変数 > 変数条件の編集** をクリックします。
変数条件に対する変更を行うことができる **変数条件設定** ウィンドウが開きます。
- 2 **OK** をクリックして変数条件を適用するか、**キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

変数条件の削除

- 1 変数条件を選択し、**変数 > 変数条件の削除** をクリックします。
接続されているすべてのアレイおよびディスクが削除されるというメッセージが表示されます。
- 2 **はい** をクリックして削除するか、**いいえ** をクリックしてキャンセルします。

アレイ

アレイノードには、RAID アレイと非 RAID ディスクグループの両方が含まれます (それぞれ異なるアイコンで表示されます)。デフォルトでは、コントローラ作成時に非 RAID ディスクグループが作成されます。コントローラ設定で必要なディスク台数が指定されている場合は、それと同数のディスクが非 RAID グループに追加されます。

- アレイは、コントローラの設定と使用可能なディスク台数に応じて、追加、変更、または削除されます。
- アレイ要素には、論理ドライブと物理ディスクが含まれます。

新しいアレイの追加

変数条件で新しいアレイを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 変数条件を選択して**アレイ > 新規アレイ**と選択します。
アレイ設定 ウィンドウが表示されます。
- 2 **希望する RAID レベル** ドロップダウン メニューから、必要な RAID レベルを設定します。
- 3 **OK** をクリックしてアレイを適用するか、**キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

アレイの編集

- 1 アレイを選択し、**アレイ > アレイの編集** とクリックします。
アレイの設定 ウィンドウが表示されます。ここでは、このアレイのために異なる RAID レベルを選択することができます。
- 2 **OK** をクリックして変更を適用するか、**キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

アレイの削除

- 1 アレイを選択し、**アレイ > アレイの削除** をクリックします。
接続されているすべてのディスクが削除されるというメッセージが表示されます。
- 2 **はい** をクリックして削除するか、**いいえ** をクリックしてキャンセルします。

論理ドライブ (仮想ディスク)

論理ドライブは RAID アレイと非 RAID グループに存在します。論理ドライブの設定中は、特定サイズ (GB 単位) の容量を割り当てる、または使用可能な (または残りの) 容量をすべて割り当てることができます。デフォルトでは、すべての新規アレイに対して単一の論理ドライブが作成され、使用可能な全容量を使用するように設定されます。

特定サイズの論理ドライブが定義されると、他のドライブにアレイ上の容量が割り当てられた後、**残りの全容量を使用する** 論理ドライブが、残りの容量をすべて使用します。

① **メモ:** Array Builder では、非 RAID グループでの論理ドライブの作成はサポートされていません。

① **メモ:** Array Builder では、非 RAID グループ内の論理ドライブは削除できません。

新しい論理ドライブの追加

- 1 アレイを選択し、**論理ドライブ > 新しい論理ドライブ** をクリックします。
論理ドライブ設定 ウィンドウが表示されます。
- 2 **論理ドライブの作成** で、その論理ドライブに必要な正確なギガバイト数を入力します。
- 3 **OK** をクリックして論理ドライブを作成、または **キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

論理ドライブの編集

- 1 論理ドライブを選択し、**論理ドライブ > 論理ドライブの編集** をクリックします。
論理ドライブ設定 ウィンドウが表示されます。ここで論理ドライブのサイズを変更できます。
- 2 **OK** をクリックして変更を適用するか、**キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

論理ドライブの削除

- 1 論理ドライブを選択し、**論理ドライブ > 論理ドライブの削除** をクリックします。

削除操作を確認するメッセージが表示されます。

- 2 **はい** をクリックして削除するか、**いいえ** をクリックしてキャンセルします。

ディスク (アレイディスク)

アレイ (または非 RAID ディスクノード) の一部としてディスクをアレイに含めることができます。このようなディスクは、次のように分類されます。

- **標準ディスク** — 基本的な未定義ディスクタイプで、アレイ上のストレージを構成します。
- **ホットスペア** - RAID ディスクに障害が発生した場合にオンライン冗長性を提供するディスクで、特定のアレイに割り当てられます。
- **残りの全ディスク** - これらのディスクは、ディスク台数を厳密に指定せずにアレイを定義するオプションを提供します。

コントローラの設定で必要なディスク台数を指定すると、その台数のディスクが非 RAID に追加されます。コントローラが正確な台数を指定する場合、そのコントローラに対してディスクの追加または削除を行うことはできず、アレイ間 (またはアレイから非 RAID グループ) での移動のみが可能です。コントローラが最小台数を指定する場合はディスクの追加または削除を行うことができますが、そのコントローラ設定で指定された最小限の台数未満にディスク数を減らすことはできません。

新しいディスクの追加

新しいディスクをアレイに追加するには、そのアレイを選択して**ディスク > 新規ディスク**とクリックします。

次のオプションから選択できます。

- **単一ディスク**
- **複数ディスク**
- **ホットスペア (現在のアレイのみ)**
- **グローバルホットスペア (すべてのアレイ)**

ディスクの変更

ディスクを変更するには、そのディスクをクリックして **ディスク > ディスクの変更** と選択します。

ディスクは次のいずれかに変更できます。

- **標準ディスク**
- **ホットスペア (現在のアレイのみ)**
- **グローバルホットスペア (すべてのアレイ)**

ディスクの削除

ディスクを削除するには、そのディスクをクリックして**ディスク > ディスクの削除**と選択します。

XML へのエクスポート

このメニューアイテムでは、現在の設定を選択した場所に XML ファイル形式で保存することができます。この設定ファイルが使用されることを確実にするには、パッケージ内に保存してください。そうしない場合、設定は変数に保存されます。

現在の設定を XML にエクスポートするには、**XML へのエクスポート** をクリックします。

XML のインポート

このメニューアイテムでは、既存の Array Builder XML ファイルを検索し、インポートすることが可能になります。この XML ファイルは正しくフォーマットしてください。しなかった場合、Configuration Manager が自動的に XML ファイルを修正して、その変更を通知します。

別の場所から既存の Array Builder XML ファイルをインポートするには、**XML のインポート** をクリックします。

パッケージへの保存

- 1 **OK** をクリックしてこれらの変更をツールキットパッケージ内の既存ファイルに保存する オプションを選択します。
- 2 **OK** をクリックして、設定を XML ファイルに保存します。

△ 注意: 新規ファイルをパッケージ内でアップデートまたは保存しても、そのすべての配布ポイントで自動的にアップデートされません。新規ファイルをすべての配布ポイントで確実にアップデートするには、ソフトウェア配布 > パッケージ > Dell PowerEdge 導入 > Dell PowerEdge Deployment ToolKit Integration <バージョン> ノード から配布ポイントをアップデートします。

RAID、DRAC、iDRAC 用のタスクシーケンスの作成

設定処置の種類 メニューから、次の表にリストされているオプションを選択して RAID、DRAC、DRAC、DRAC 用のタスクシーケンスを作成することができます。

表 2. RAID、DRAC、iDRAC 用のタスクシーケンスの作成

オプション	サブオプション	説明
RAID 設定 (.ini ファイル)	5i-raid0.ini	RAID 0 用のサンプルファイル
	5i-raid1.ini	RAID 1 用のサンプルファイル
	5i-raid5.ini	RAID 5 用のサンプルファイル
	raidcfg.ini	既存の raidcfg.ini ファイルを使用して RAID を設定します。これに類似した例については、「<syscfg.ini> の編集」を参照してください。
	iscsicfg.ini	既存の iscsicfg.ini ファイルを使用して RAID を設定します。これに類似した例については、「<syscfg.ini> の編集」を参照してください。
RAID 設定 (コマンドライン)	なし	このオプションは、CLI を使って手動で RAID トークンを設定する場合に使用します。
RAC 設定 (DRAC5)	<設定ファイルの作成>	BIOS オプションの詳細に関しては、<設定ファイルの作成> を参照して下さい。
	<設定ファイルのインポート>	BIOS オプションの詳細に関しては、<設定ファイルのインポート> を参照して下さい。
	rac5cfg.ini	既存の rac5cfg.ini ファイルを使用して DRAC5 を設定します。これに類似した例については、「<raidcfg.ini の編集>」を参照してください。
		i メモ: DRAC 設定 (DRAC5) は、Dell PowerEdge xx0x モジュラサーバー上の Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) を設定するために使用します。
iDRAC 設定 (iDRAC6)	<設定ファイルの作成>	BIOS オプションに関しては、<設定ファイルの作成> を参照してください。

オプション	サブオプション	説明
iDRAC 設定 (iDRAC7)	<設定ファイルのインポート>	BIOS オプションの詳細に関しては、<設定ファイルのインポート> を参照して下さい。
	idrac6cfg.ini	既存の idrac6cfg.ini ファイルを使用して iDRAC6 を設定します。これに類似した例については、「<syscfg.ini> の編集」を参照してください。
	<設定ファイルの作成>	BIOS オプションの詳細に関しては、<設定ファイルの作成> を参照して下さい。
iDRAC 設定 (iDRAC8)	<設定ファイルのインポート>	BIOS オプションの詳細に関しては、<設定ファイルのインポート> を参照して下さい。
	idrac7cfg.ini	既存の idrac7cfg.ini ファイルを使用して iDRAC7 を設定します。これに類似した例については、「<syscfg.ini> の編集」を参照してください。
	<設定ファイルの作成>	BIOS オプションの詳細に関しては、<設定ファイルの作成> を参照して下さい。
iDRAC 設定 (iDRAC9)	<設定ファイルのインポート>	BIOS オプションの詳細に関しては、<設定ファイルのインポート> を参照して下さい。
	idrac8cfg.ini	既存の idrac8cfg.ini ファイルを使用して iDRAC8 を設定します。これに類似した例については、「<syscfg.ini> の編集」を参照してください。
	<設定ファイルの作成>	BIOS オプションの詳細に関しては、<設定ファイルの作成> を参照して下さい。
iDRAC 設定 (iDRAC9)	<設定ファイルのインポート>	BIOS オプションの詳細に関しては、<設定ファイルのインポート> を参照して下さい。
	idrac9cfg.ini	既存の idrac9cfg.ini ファイルを使用して iDRAC9 を設定します。これに類似した例については、「<syscfg.ini> の編集」を参照してください。
	<設定ファイルの作成>	BIOS オプションの詳細に関しては、<設定ファイルの作成> を参照して下さい。

システムの BIOS、RAID、DRAC、および iDRAC の設定後、タスクシーケンスエディタに、ハードウェアコンポーネントシーケンスが表示されます。

変数置き換え

変数置き換え タブでは、次のようなタスク変数を使用し、設定することができます。

- システム変数
- タスクシーケンス変数
- マシン変数
- コレクション変数

変数置換タブオプションの設定

- 1 変数が初期化されていない、または値が null か空白の場合の処置 セクションで、次のいずれか 1 つのオプションを選択します。

null/ 空白値を使用する 初期化されていない変数や、空白値を持つ変数を使用します。これにより、変数が未定義または空白の場合でも、クライアントは処置の処理を継続できます。

タスクを使用不可にする 有効な変数値を取得できない処置を使用不可にします。これにより、失敗したコマンドライン、または誤って設定されたシステムのデバッグを試行するかわりに、処置の不具合を表示することができます。

2 **置き換える変数のすべてのテキスト入力ファイルを検索** を選択して、次の操作を行います。

- クライアント側のスクリプトを有効にして、コマンドライン内、または指定したファイル内の変数を検索して置き換えを行う。
- 変数をタスクシーケンス環境または Windows システム環境内で検出された値に置き換える。

処置のパフォーマンスの最適化のため、**置き換える変数のすべてのテキスト入力ファイルを検索** チェックボックスをクリアします。

3 **提供および確定されたパスワードでの処置** ダイアログボックスのインスタンスを置換するには、このパスワードで **%PASSWORD%** 変数を置換するを選択します。

4 システムで追加の変数を設定するには、**手動で追加変数を定義する** を選択します。追加の変数を定義するには、次の手順を実行します。

- a 変数の **名前** を入力します。
- b 変数の **値** を入力します。
- c 変数の **タイプ** をドロップダウンメニューから選択します。

5 **適用、OK** の順にクリックします。

ログファイルの取得または設定ファイルのキャプチャ

1 **この処置の実行後、タスクシーケンスのログファイルをクライアントから取得する** を選択します。

2 ログファイルの詳細情報を取得するには、**この処置で拡張 / デバッグロギングを有効にする** を選択します。

3 **前の手順からのネットワークフォルダ設定があればそれを維持する** を選択して以前の手順から使用可能なネットワークフォルダ設定をコピーする、または **手順 4 に進んでネットワークフォルダを設定します**。

4 ファイルを保存するための有効なネットワーク / ローカルパスを入力します。

5 そのパスにアクセスするためのドメインおよびアカウント名を入力します。

6 パスワードを入力して確認します。

7 手順 4 でネットワークパスを指定した場合、**上記のネットワーク共有にドライブ文字をマップする** を選択し、ドロップダウンメニューからドライブ文字を選択します。

8 **適用、OK** の順にクリックします。

Dell サーバードライバパッケージのインポート

Dell EMC Server Deployment Pack は、『Dell Systems Management Tools and Documentation』DVD に収録されているドライバを使用し、サーバオペレーティングシステムの組み合わせに基づいて Configuration Manager でドライバパッケージを作成するためのウィザードを提供します。これらのパッケージは、オペレーティングシステム導入のタスクシーケンスで使用されます。

1 お使いのシステムのドライブに『Dell Systems Management Tools and Documentation』DVD バージョン 6.2 以降を挿入します。この DVD の最新の ISO イメージは Dell.com/support からダウンロードできます。

2 **Configuration Manager コンソール** を起動します。

3 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** → **概要** → **オペレーティングシステム** → **ドライバパッケージ** と選択します。

4 **Driver Packages** (ドライバパッケージ) を右クリックして、**Dell Server Driver Package** (Dell サーバードライバパッケージ) → **Import Dell PowerEdge Server Driver Packages** (Dell PowerEdge サーバードライバパッケージのインポート) を選択します。**Dell PowerEdge Server Driver Package Import** (Dell PowerEdge サーバードライバパッケージのインポート) ウィザードが表示され、Systems Management DVD の場所を選択するよう促されます。

① メモ:

- ISO イメージをダウンロード済みの場合は、物理ディスクを作成、または仮想ディスク上にそれをマウントします。
- バージョン 8.3 以降用の OM Server Driver Pack ISO DVD を使用します。

5 DVD を挿入したドライブを選択して、次へをクリックします。

システムとオペレーティングシステムの組み合わせに対するドライバパッケージのリストが表示されます。

- 6 必要なパッケージを選択し、**Finish** (終了) をクリックします。

プログレスバーにインポートの進捗状態が表示されます。インポートが完了すると、インポートのサマリが表示されます。

① | **メモ:** ドライバのインポートには時間がかかったり、進捗バーがすぐにアップデートされない場合があります。

- 7 **閉じる** をクリックします。

トラブルシューティング

- ① **メモ:** トラブルシューティングの項に記載されたサンプルコマンドを実行する前に、DTK マニュアルを参照し、必要な場合は、マシン構成に基いてコマンドを再作成してください。

コマンドラインインタフェースを使用して RAID をシステムに適用しようとするときエラーが発生する

以前のバージョンの RAID が設定済みのシステム上でコマンドラインインタフェース (CLI) を使用して RAID を適用しようすると、エラーが表示されます。

対応処置: Dell PowerEdge サーバー設定タスクシーケンス手順 (RAID コマンドライン) をもう 1 つ追加して、既存の RAID レベルをクリアします。詳細に関しては、『*Dell Deployment Toolkit ユーザーズガイド*』を参照してください。

アップグレードシナリオ 1

DTK ユーティリティ、Windows PE ドライバ、DSDP で作成された起動イメージを維持して、DSDP のバージョンを 3.1 から 4.0 にアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

- 1 タスクシーケンスを編集するには、左ペインの **追加** ドロップダウンメニューから、**全般** をクリックし、**タスクシーケンス変数の設定** をクリックします。
- 2 次の詳細を使用して、**Windows PE で再起動** の後、**Site Server アドレスを設定** を追加します。
 - **Name (名前)** に `Set Site Server Address` と入力します。
 - **Task Sequence Variable (タスクシーケンス変数)** に `SiteServer` と入力します。
 - **Value (値)** に `<Site server FQDN>` と入力します。たとえば `ss1.abc.com` です。
 - **適用、OK** の順にクリックします。
- 3 **PowerEdge Custom Reboot Script** と **PowerEdge Deployment Toolkit の統合** パッケージを配布しアップグレードします。

- ① **メモ:** アップグレード中、起動イメージに割り当てられているドライバが削除され、起動イメージをタスクシーケンスにリンクし、起動イメージにドライバを投入する必要があります。

アップグレードシナリオ 2

DTK ユーティリティ、Windows PE ドライバ、DSDP で作成された起動イメージを削除して、DSDP のバージョンを 3.1 から 4.0 にアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

- 1 タスクシーケンスを編集します。

① **メモ:** タスクシーケンスを編集すると、次のエラーメッセージが表示されます。Diskpart クリーンステップはパッケージへの参照が失われています。プロンプトが表示されたら OK をクリックします。
- 2 **Diskpart clean (Diskpart クリーン)** タブを選択します。**Browse (参照)** をクリックし、Dell PowerEdge Custom Reboot スクリプトパッケージを選択します。
- 3 左ペインの **追加** ドロップダウンメニューから、**全般** をクリックし、**タスクシーケンス変数の設定** をクリックします。
- 4 次の詳細を使用して、**Windows PE で再起動** の後、**Site Server アドレスを設定** を追加します。

- **Name (名前)** に `Set Site Server Address` と入力します。
- **Task Sequence Variable (タスクシーケンス変数)** に `SiteServer` と入力します。
- **Value (値)** に `<Site server FQDN>` と入力します。たとえば、次のとおりです。`ss1.abc.com`
- **適用、OK** の順にクリックします。

5 **PowerEdge Custom Reboot Script と PowerEdge Deployment Toolkit の統合** パッケージを配布しアップデートします。

① **メモ:** アップグレード中、ドライバーが削除され、ブートイメージを作成し、ブートイメージをタスクシーケンスにリンクしてから、ブートイメージにドライバーを注入する必要があります。

コマンドラインオプション

DSDP は、Dell Deployment Toolkit でサポートされているコマンドラインオプションをサポートしています。

コマンドラインオプション、使用ガイドライン、および構文の詳細については、『Dell OpenManage Deployment Toolkit バージョン 4.4 コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』を参照してください。

DSDP でサポートされる SYSCFG および RAIDCFG コマンド

- SYSCFG — Deployment Toolkit (DTK) システム設定ユーティリティの SYSCFG コマンドは、設定ファイル形式、サーバー BIOS の設定に使用する個々の実行可能ファイルと、DTK 状態設定に関する情報、および PCI デバイス検出を含むシステム情報を取得するためのコマンドの実行を可能にします。
- RAIDCFG — Deployment Toolkit (DTK) RAID 設定ユーティリティ RAIDCFG は、すべての対応 RAID コントローラを設定するためのコマンドを提供します。

① **メモ:** 正確な結果を得るため、タスクシーケンス ウィザードでコマンドラインオプションを入力することをお勧めします。

—acpower

表 3. SYSCFG コマンド

オプション	<code>--acpower</code>
有効な引数	on、off、last
説明	AC 電源喪失後におけるシステムのための動作を設定します。このオプションは AC 電源の回復に対してシステムがどのように応答するかを指定するもので、特に、電源タップを使用して電源を切るシステムに対して便利です。 on に設定すると、AC 電源の回復後にシステム電源がオンになります。 off に設定すると、AC 電源が回復してもシステム電源はオンになりません。 last に設定すると、AC 電源喪失時にシステムがオンであった場合にはシステムがオンになり、AC 電源喪失時にシステムがオフであれば、電源が回復してもシステムはオフ状態のままとなります。このオプションは複製可能です。 例： <code>A:>syscfg --acpower=on acpower=on</code>
適用可能なシステム	PowerEdge 12G システムより前のすべての Dell PowerEdge システム。

このコマンドを DSDP で使用するとき、syscfg を削除してコマンドを実行します。

`--acpower=on acpower=on`

表 4. RAIDCFG コマンド

必須オプションおよび引数	オプションパラメータ	有効なパラメータ引数	説明
<code>-vd -vd=id -ac=svdn - vdn=<string> - c=id</code> または <code>vdisk vdisk=id action=setvdname</code>	該当なし	該当なし	指定したコントローラ上で指定した仮想ディスクの名前を設定します。 例： <code>A:>raidcfg -vd -vd=2 -ac=svdn - vdn=xxx -c=2</code> RAIDCFG Command successful!

必須オプションおよび引数	オプションパラメータ	有効なパラメータ引数	説明
vdname=<string> controllerid= id			

このコマンドを DSDP で使用するときは、raidcfg を削除してコマンドを実行します。

```
-vd -vd=2 -ac=svdn -vdm=xxx -c=2 RAIDCFG Command successful!
```

デルのその他のマニュアル

本書およびオンラインヘルプに加えて、次のマニュアルを参照し、特定の Dell OpenManage 製品の詳細を把握してください。これらのマニュアルは、Dell.com/support/manuals で入手できます。

- 『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell EMC Server Deployment Pack バージョン 4.0 インストールガイド』では、お使いのシステムへの DSDP 4.0 のインストールに関する情報を提供しています。
- 『Dell Remote Access Controller 5 ファームウェアユーザズガイド』には、RACADM コマンドラインユーティリティを使用して DRAC 5 を設定する方法についての包括的な情報が提供されています。
- 『Dell Chassis Management Controller ユーザーズガイド』には、Dell サーバーが設置されているシャーシ内の全モジュールを管理するコントローラの使用についての包括的な情報が提供されています。
- 『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』には、を管理および管理下システムでの Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) インストール、設定、およびメンテナンスの実行に関する情報が提供されています。
- 『Dell Remote Access Controller/Modular Chassis ユーザーズガイド』には、Dell Remote Access Controller/Modular Chassis (DRAC/MC) のインストール、設定、メンテナンスの実行についての情報が提供されています。
- 『iDRAC6 および CMC コマンドリファレンスガイド』では、RACADM コマンドラインユーティリティの使用に関する包括的な情報を提供しています。
- 『iDRAC 2.00.00.00 および CMC コマンドリファレンスガイド』では、第 10 ~ 13 世代プラットフォームの RACADM コマンドラインユーティリティの使用に関する包括的な情報を提供しています。
- 『Dell OpenManage Deployment ToolKit ユーザーズガイド』では、Windows Preinstallation Environment (Windows PE) または組み込まれた Linux を使用した正常な導入のための基本的な作業に焦点を当てた、一般的なベストプラクティス手順が記載されています。
- 『Dell OpenManage Deployment ToolKit コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』では、システム機能を設定するためのコマンドラインユーティリティについての情報を提供します。
- 『Server Update Utility ユーザーズガイド』は、アップデートを識別してシステムに適用する方法を説明しています。
- 『Dell Repository Manager ユーザーズガイド』では、Microsoft Windows オペレーティングシステムが動作しているサーバー上でカスタマイズされたバンドルやリポジトリを作成する方法について説明しています。
- 『Glossary』(用語集) では、本書で使用される用語について説明しています。
- 『Integrated Dell Remote Access Controller 8 with Lifecycle Controller ユーザーズガイド』

トピック：

- [Dell EMC へのお問い合わせ](#)
- [Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス](#)

Dell EMC へのお問い合わせ

- ① **メモ:** お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、または製品カタログで連絡先をご確認ください。

Dell EMC では、オンラインおよび電話によるサポートとサービスオプションをいくつかご用意しています。これらのサービスは国および製品によって異なり、お住まいの地域では一部のサービスがご利用いただけない場合があります。Dell EMC のセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

Dell.com/contactdell にアクセスします。

Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス

次のリンクを使用して、必要なドキュメントにアクセスします。

- Dell EMC Enterprise システム管理マニュアル — [Dell.com/SoftwareSecurityManuals](https://www.dell.com/support/manuals)
- Dell EMC OpenManage マニュアル — [Dell.com/OpenManageManuals](https://www.dell.com/support/manuals)
- Dell EMC リモートエンタープライズシステム管理マニュアル — [Dell.com/esmmanuals](https://www.dell.com/support/manuals)
- iDRAC および Dell EMC Lifecycle Controller マニュアル — [Dell.com/idracmanuals](https://www.dell.com/support/manuals)
- Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズシステム管理マニュアル — [Dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement](https://www.dell.com/support/manuals)
- Dell EMC 保守ツールマニュアル — [Dell.com/ServiceabilityTools](https://www.dell.com/support/manuals)
- Client Command Suite システム管理マニュアル — [Dell.com/DellClientCommandSuiteManuals](https://www.dell.com/support/manuals)
- a [Dell.com/Support/Home](https://www.dell.com/support/home) に移動します。
- b **Choose from all products (すべての製品から選択)** をクリックします。
- c **All products (すべての製品)** セクションで **Software & Security (ソフトウェアおよびセキュリティ)** をクリックして、次の中から必要なリンクをクリックします。
 - **Enterprise Systems Management (エンタープライズシステム管理)**
 - **Remote Enterprise Systems Management (リモートエンタープライズシステム管理)**
 - **Serviceability Tools (保守ツール)**
 - **Dell Client Command Suite (デルクライアントコマンドスイート)**
 - **Connections Client Systems Management (接続クライアントシステム管理)**
- d ドキュメントを表示するには、必要な製品バージョンをクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
 - 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。